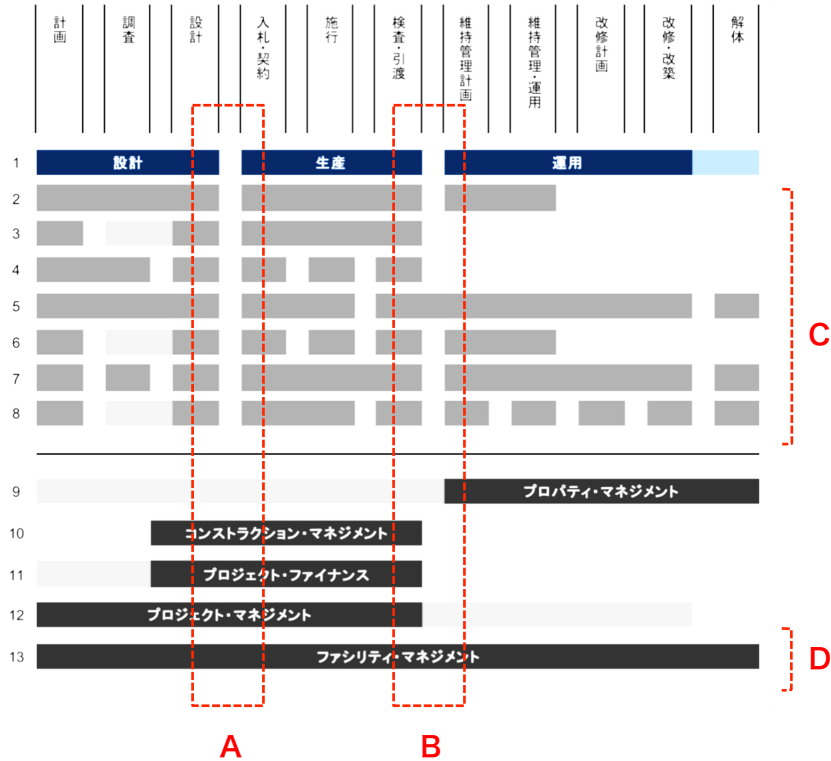


① 既往研究における建築LCプロセス・マネジメント領域の定義と一般的理解

→タスク、ステークホルダー、情報の流れの関係性が混在し不明瞭



1 本論が示すライフサイクルプロセス分類（情報の流れに着目し設計・生産・運用の三段階に分類）
 2~8 既往研究におけるプロセス・タスク分類
 9~13 既往研究におけるマネジメント領域の表示

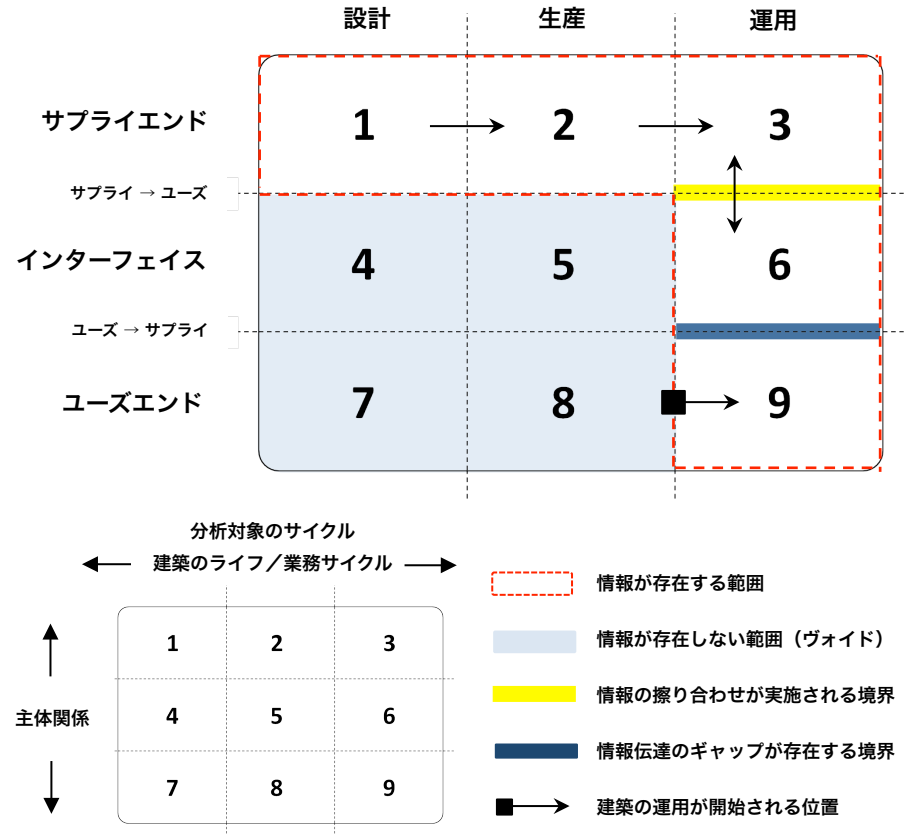
A タスク群間の擦り合わせをマネジメントが実施するという認識
 B 生産と運用プロセスの間における乖離
 C 既往のタスク記述の多様な定義と不明確な記述枠組み
 D 理想としての定義、実務表現としては曖昧

② 9グリッド情報記述手法

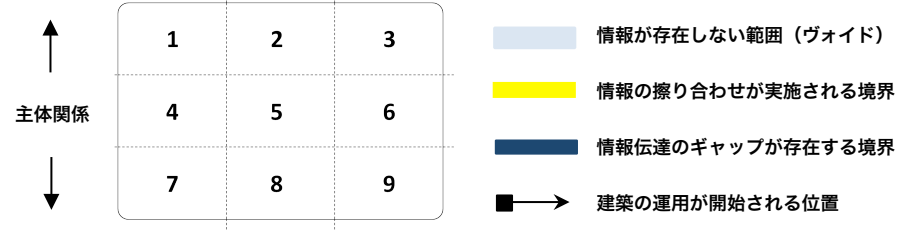
主体関係と、建築ライフサイクルプロセスの掛け合わせによる情報の流れを記述

→建築の使い手の情報と実運用情報の位置づけを明確化

→インターフェイスとなる主体の情報関係を、相対的に位置づける



分析対象のサイクル
 ← 建築のライフ/業務サイクル →

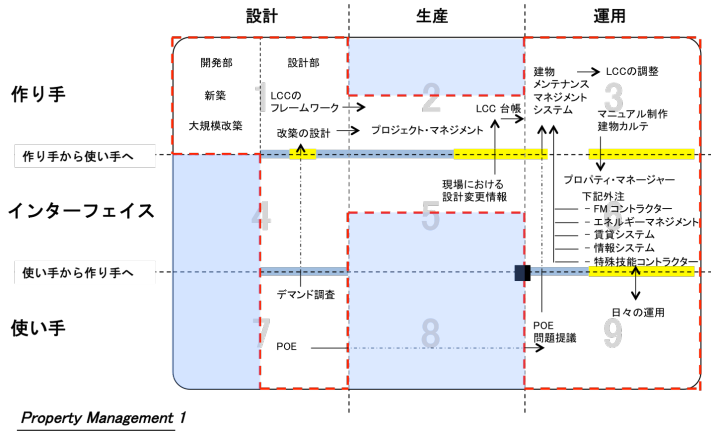


上記例は、設計生産時に、サプライ主導で多主体の情報を関与せず建築をつくり、運用時にはインターフェイスとなる主体とは情報を擦り合せているが、使い手に至っては、それらの情報を得ることなく、info-less な状態で建物を利用しているという例を記述している。情報が存在しない領域の存在自体は、建築や建築プロセスの良し悪しの評価とは、直接関係しない。

③ 「9グリッド情報記述手法」によるFM9社の実務の記述

→実務の比較検証からFM実務における情報運用の多様性を認識

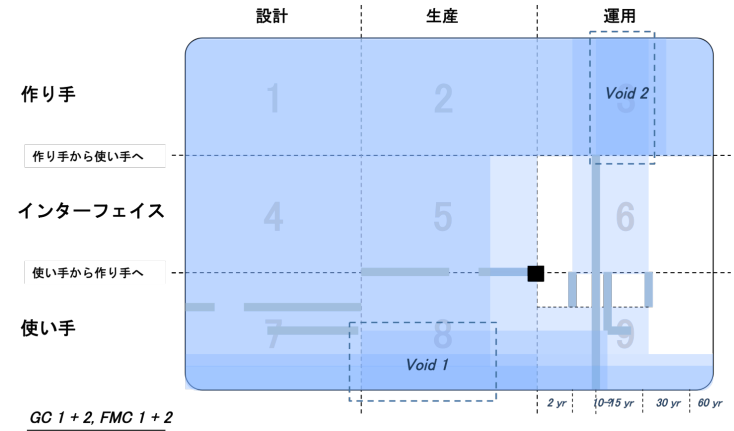
プロパティマネジメントの一例



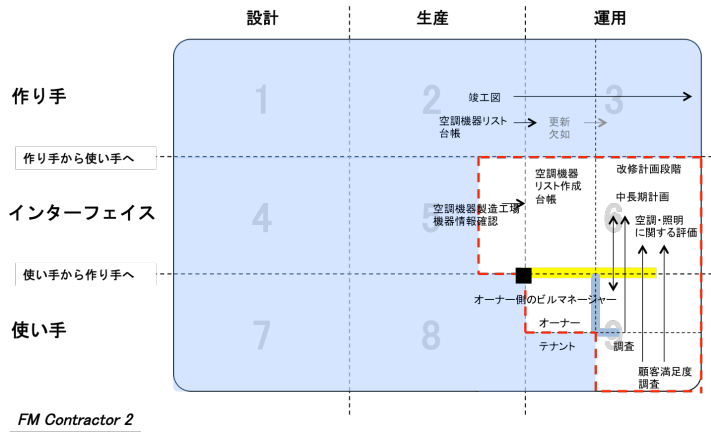
④ 9グリッドによる情報分析事例

→業務主体間のマネジメント領域と対象とする情報群の相違を把握

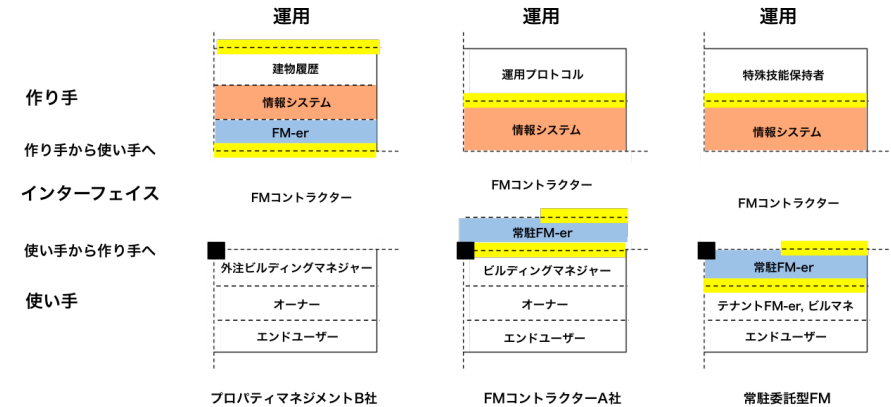
分析事例1：情報ギャップ、ヴォイドの分析 (ゼネコンとFMコントラクター4社より)



FMコントラクターの一例

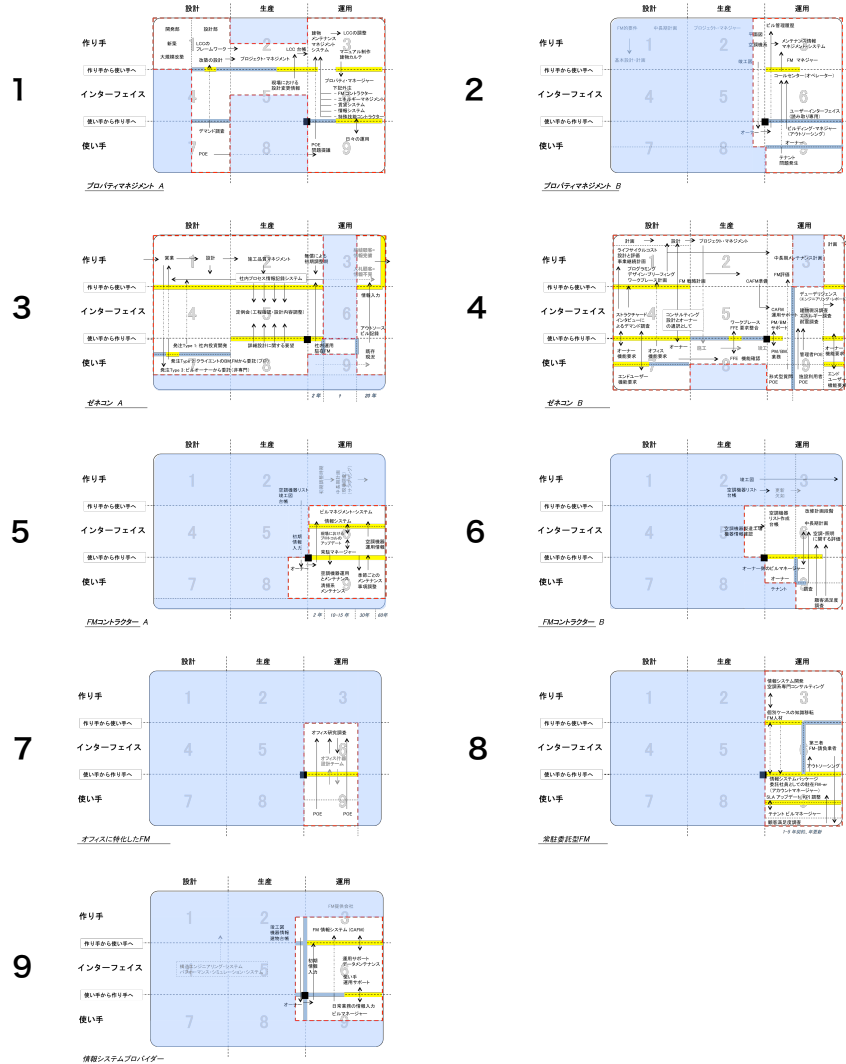


分析事例2：情報システム、FM-erの位置づけの相違による情報生産の関係性を比較



⑤ 「9グリッド情報記述手法」によるFM9社の実務の記述と比較 → 建物のライフサイクルと業務のサイクルを比較

9社の「建物のライフサイクル」における情報の流れ



9社の「業務のサイクル」における情報の流れ

